

大野ダムの事前放流に係る実証実験の結果について

(令和元年 5 月 23 日実施)

京都府建設交通部河川課
大野ダム総合管理事務所

平成30年度に実施された、「京都府大野ダムの洪水調節機能と情報の充実に向けた検討会」の結果に基づき、以下のとおり、事前放流に係る実証実験を行いました。

1 事前放流とは

事前放流とは、台風等による大雨に備え、予め貯水位を下げ、洪水調節容量を増大させ、異常洪水時防災操作（緊急放流）※のリスクを低減、または、遅延させることを目的としています。

2 実証実験の目的

現在の最低水位である標高 155m から実際に水位を下げ、ダム管理設備、貯水池、ダムからの放流水などへの影響の有無について確認するものです。

今回は、貯水位を標高 154m まで 1 m 低下させ確認しました。

(最終目標は、現在の最低貯水位 155m から 150m までの 5 m 下げることとしています。)

3 実施日時

令和元年 5 月 23 日（木） 午前 8 時 30 分～午後 4 時 30 分

4 実験結果について

- ・ダム管理用制御処理設備への影響は無い
- ・ダム貯水池及び放流水に著しい濁りの発生は無い
- ・管理用船舶の係留施設が 155.0m から下が対応できていないことを確認
(実験中は一時的に外して網場に係留したが、台風時等は危険が伴うため対応できない)
- ・発電取水用除塵フロートが 153.0m 付近で岸と接触することを確認

5 今後の予定について

・今後も段階的に水位を下げ、実証実験を行い、課題の抽出及び対策を実施し、本格運用を目指します。

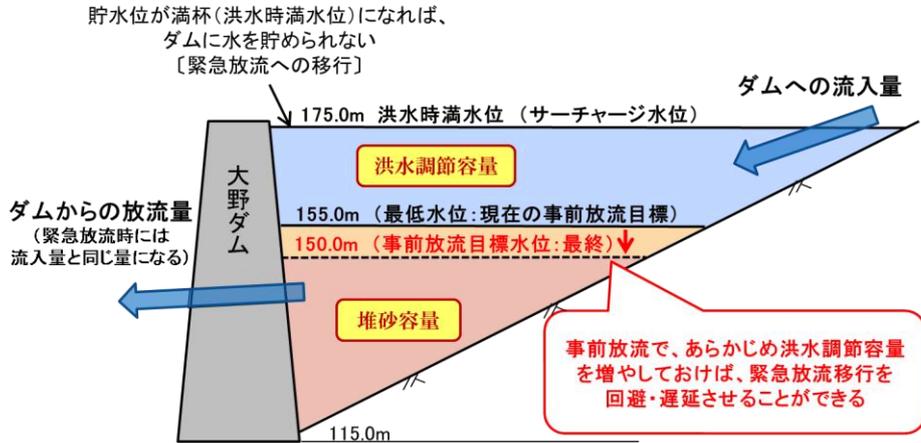
(*) 異常洪水時防災操作（緊急放流）

大きな洪水によりダムの洪水調節容量を使い切る可能性が生じることにより、放流量を徐々に増加させ、流入量と同じ流量を放流する操作

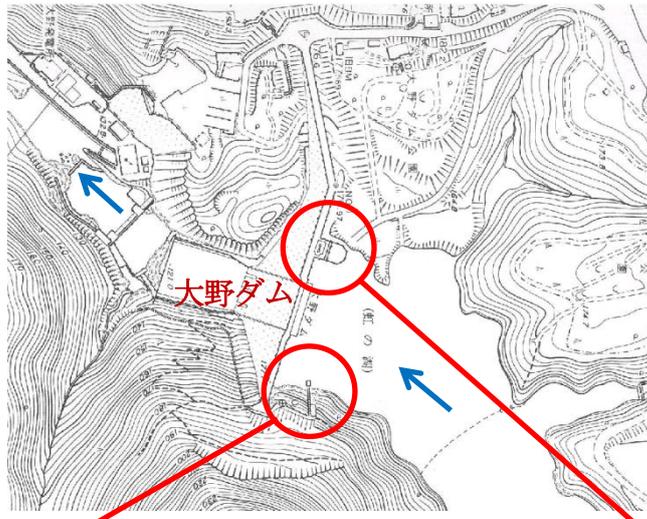
事前放流のイメージ図

事前放流の効果

<異常洪水時防災操作(緊急放流)のリスク軽減>イメージ図



確認状況 (貯水位 154.0m 付近)



管理用船舶の係留施設



155.0m 以下に対応できていない

発電取水用除塵フロート



153.0m 付近で岸と接触